

## 先生方のための徹底入試対策講座

## 第120回 今年の国公立大入試は？

今年の国公立大入試の数学は、例年と大きく違う要素があるようです。世界的疫病流行の異常事態下で、例年より易しいあるいは類型にはまった問題を出した大学が少なくありません。この1年の多くの高校では授業が十分に余裕ある状況ではなく、それゆえ、出題の配慮を文科省が求めたことに因るのでしょうか。



## 《入試傾向が大きく変化した大学》

## ●京都大：理系，文系

例年より、かなり手の付け易い類型にはまった問題が多くを占めました。異常事態下での特色とみていいのかどうかはわかりませんが、次年度以降、この傾向が続くとはとても考えられません。来年受験する受験生は今年の問題を見て、気が緩むことが多いのではないかと心配します。しかし、来年度はこのような問題で許してはくれない(?)でしょう。難化の可能性が高いと思います。意識の持ち方で受験生の間に格差が生まれそうです。

今年の問題の中でも、学ぶべきことがいくつもあります。論理の飛躍をなくす、確実に素早い計算、これまで同様に小問がない問題への対応、などです。これまでの傾向に戻っても、対応できる学力を養いたいですね。

## ●名古屋大：理系，文系

理系は、例年、重厚な融合問題4問ですが、今年はかなり易しくなっています。文系との違いといえば、理系の1は極めて貧素な最大値を求める小問が付加されているだけ、2は文理共通、3はやや難しい小問が一つ付加されているぐらいですね。私の知る限り、これまでこのような文理共通がほとんどというセットはありません。共通問題がほとんどなら文系にとってはどうなのでしょう。これだけ共通問題が多いのに、例年に比して文系もやや易化しています。理系はさらに理系独自の4がありますが、ガウス記号と数列の漸化式との融合問題で、これだけは、例年の名古屋大の香りを残した良問です。これで何とか理系の面目を保とうということでしょうか、あれれ…数学Ⅲの微積は出題がない!!!???今年の特殊事情で数学Ⅲの演習量が少ない現役生への配慮でしょうか?まさか!でも?……

## ●大阪大：理系，文系

実は、理系の傾向が大きく変わったのは、昨年度(2020年度)です。それ以前の5年間は、重厚骨太、数学的背景を持つ興味深い難問も出題され、全体的には難しい出題だなあと世間に?思われていました。しかし、昨年度は、なんということでしょう!易しい!!これでは学力を正確に測ることなどできるのだろうか心配していました。今年度(2021年度)は必ずや、以前の格調高い出題に戻るだろうと思っていたのですが、戻らない!やや難化したような気がしないでもないですが、やはり易しい。(もちろん、この大学にしては易しいという意味です。一般の大学で出されたらかなり難しい問題のセットです。念のため。)

普通なら、今年は、2019年以前の傾向を引き継いで、難しい良問のセットが期待されていたのですが、この有様です。そういう意味で、今年大きく傾向が変化したといってもいいと思います。



各大学の出題の傾向は、毎年少しずつは変化しますが、多くの大学でかなりの変化となれば、何らかの原因を求めたくなりますよね。

北海道大・文系，理系はともに、手の付けやすい問題が含まれ、わずかに易化したようです。このような大学が少なくありません。おそらく、異常事態をいくらかは意識するけれど、かといって大きく変えるのは、...ということかもしれません。

